はしがき

本書を執筆することについて、私は長らく躊躇してきた。それは、次のような理由による。

1つは、塩尻公明という巨人についての研究に本格的に取り組むためには、広大で深奥な思想的識見と求道に関する徹底した体験とを必要とすると考えていたからである。明らかに私は、そのいずれをも欠いているからである。それゆえに、塩尻公明研究に取り組むことは、到底無理な企画であった。

2つは、私は塩尻公明の最終講義を受けて以来、彼の著書の愛読者ではあっても、長い間、それ以上には出ない存在であったからである。愛読者であることと、塩尻公明の思想を守り、その思想に忠実に生きることとは、全くとは言わないまでも、別問題であるからである。塩尻公明の思想に憧れ、人格の完成に生きるべきという彼の生き方には同感し、そう生きたいとは熱願したが、現実の自分はまったくそういう存在ではなかったということである。

3つは、私は、塩尻公明思想を継承する任務を負っている学問上の正統な弟子ではないし、また、そんな畏れ多い存在ではないこと、まして、その力量もないと考えてきたからである。塩尻公明研究には、塩尻公明公認の弟子がおり、彼がもっとも適任者である、と周囲の人々も（当然、私も）考えてきたからである。

4つは、私の本来の教育学・教育行政学研究だけで精一杯で、塩尻公明の思想研究に取り組む余裕などなかったからである。私は、私の専門とする教育学・教育行政学の分野においてさえ未（いま）だ一人前の業績すら挙げていない。にも拘わらず私は、私の気ままで動じ易い性格によって、いろいろな脇道の研究テーマにも手を出してきた。このツケが、専門性の薄い研究成果しか残せていない結果を招来している。私自身、慙愧（ざんき）の念に堪えない思いである。ただし、残された人生において、これまで進めてきた教育学・教育行政学の研究テーマを何とか形にしたいものと決意しているところである。

5つは、塩尻公明研究は、一人の非力な教育学研究者が片手間でやれる研究ではないということである。そもそも片手間でやれるような研究など何処にもない

のであるが、塩尻公明研究に取り組むことは、少なくとも、私の残りの生涯の全時間と全エネルギーとを注ぎ込むことを要求するに違いない。否、私がそうした努力をしたとしても、この研究は、確たる成果が見込める予測もないのである。それほど、塩尻公明研究は、私には途方もない大きなテーマなのである。おそらく、そのことが分かっていたから、賢明な人々は、塩尻公明研究に手をつけなかったのではなかろうか。

ところが2010年の春から、私は想定外の仕事として、『塩尻公明　民主主義の道徳哲学（講義ノート）』を編集することになった。その作業中、改めて塩尻公明の講義原稿を読んだり講義録音を聴き返したりするうちに、身の程を忘れて、何らかの形の塩尻公明論を書いておきたいと思うようになった。「塩尻公明会」の元メンバーたちが、背を押して下さったことも大いに影響した。さらに遅まきながらも、同会編『塩尻公明会便り』誌（会報、1～20号、今は廃刊）における私への期待を知るに及んで、今こそ、少しでもメンバーの方々の厚意に報いなければならないとも考えるに至った。

しかし今回の私の無謀な試みも、メモ書きを整理した域を出なかった。それゆえに本書は、塩尻公明の思想の全体像に取り組んでくれる勇敢な人物が出現してくるまでの繋ぎであると考えたい。

塩尻公明の未公表のまま残されている膨大な日記や講義原稿類が、いつの日にか公刊されることになれば、その時、塩尻公明の実像がもっと鮮明になってくるのではないかと考える。

ささやかな「塩尻公明論ノート」であるが、賢明なる読者からの建設的なご意見とご批評とをお願いする次第である。

終わりになったが、出版事情の必ずしもよくない中にもかかわらず、前著『現代教育思想としての塩尻公明』（1999年）に続き、続篇となる本書の刊行を快諾された大学教育出版と佐藤守社長、編集でお世話になった安田愛さまに、心からお礼と感謝とを申し上げたい。

2011年6月5日

中谷　彪

塩尻公明

—求道者・学者の生涯と思想—

目　次

はしがき……i

プロローグ……1

1　塩尻公明という人　1

（1）　忘れられた思索家―牛村圭の塩尻像―　1

（2）　憧れの名物教授―綱淵謙錠の塩尻像―　2

（3）　求道者・学者・教育家―木村健康の塩尻像―　2

2　塩尻公明像の素描―知人が語る塩尻像―　4

（1）　両極端の塩尻像　4

（2）　奥宮延子の塩尻像　5

（3）　旧制高知高校の学生たちの塩尻像　5

（4）　神戸大学の学生たちの塩尻像　6

3　塩尻公明の実像を求めて　7

第１章　備藤公明の誕生……9

1　備藤家と公明の誕生　9

（1）　備藤公明の誕生　9

（2）　備藤家の家族　11

2　塩尻家と公明　18

（1）　塩尻家の養父・養母　18

（2）　塩尻卯女と公明　21

（3）　卯女の生き方と公明　31

第２章　青少年期の備藤公明……45

1　幼少期の生活　45

（1）　小学校時代　45

（2）　中学校時代　46

2　青年期の生活　48

（1）　旧制第一高等学校の時代　48

（2）　東京帝国大学時代の生活　63

第３章　苦悩地獄時代の塩尻公明 …… 69
1　一燈園時代　69
（1）　托鉢の生活　69
（2）　一燈園に別れ　71
2　越後の田舎生活　73
（1）　読書と百姓の生活　73
（2）『生活者』への寄稿　76
（3）　越後から大阪へ　85
3　坐禅から受取るへ　86
（1）　順正寺で坐禅する　86
（2）　蜂屋賢喜代師に師事　88
（3）「すべてよく受取る」　89

第４章　旧制高知高等学校時代の塩尻公明 …… 93
1　教職に就く　93
（1）　旧制高知高等学校の教授に　93
（2）　実力を発揮する　96
（3）　学問と求道の両立　100
（4）　彼の容貌と服装と講義原稿　104
（5）　如何に生くべきかを語った名講義　111
（6）　謙虚であった講義態度　117
（7）　個人主義と自由主義の擁護　120
（8）　勉強時間なき苦しみ　128
2　著作の発表　130
（1）『ベンサムとコールリッヂ』　130
（2）『天分と愛情の問題』　132
3　空襲で原稿類を焼失　135
（1）　空襲と彼の行動　135
（2）　校長弾劾騒動の先頭に立つ　139

第５章　結婚と家族と病気 …… 151
1　体験した結婚と離婚　151
（1）　結婚と離婚の秘密　151
（2）　記事から推測する　152
（3）　相手の女性について　154
（4）　離婚の原因は何か　159
2　40 歳で再婚　160
（1）　名越一枝女史と再婚　160
（2）　結婚を講義する　161
3　塩尻家の新しい生活　164
（1）　長男の誕生　164
（2）　郷里で長男と初対面　164
（3）　空襲で三度目の疎開　166
（4）　不自由な疎開生活　166
（5）　官舎での楽しい家庭　167
（6）　多くの著作を生み出した書斎　168
4　塩尻の病気　170
（1）　絶対安静の病状　170
（2）　妻と子どもへの遺書　171
（3）　危険な病気との付き合い　172
（4）　闘病下での勉強　173

第６章　高知から神戸へ …… 178
1　塩尻思想の爆発　178
（1）　蓄積した思想の爆発時代　178
（2）　神戸大学へスカウトされる　180
（3）　塩尻が招聘に応じた理由　182
2　さらば高知よ　184
（1）「虚無について」の真意　184
（2）　塩尻教授お別れ講演会　190

第７章　神戸大学時代の塩尻公明 …… 195
1　傑出した教育学部長　195
（1）　神戸での新しい生活と人気教授　195
（2）　4期8年の名教育学部長　198
（3）　求道としての学部長職　201
（4）　A級大学のA級教育学部の創設　203
（5）　教育学部の整備　207
（6）　開かれた大学自治・教授会自治　213
2　塩尻公明教育学部長の挨拶　216
（1）　講義としての挨拶―周到に用意された原稿―　216
（2）　劣等観念の横行する国　217
（3）　就職難について　225
（4）　全教学協大会への所感　232
（5）　社会改革と宗教―教育学部卒業生への送別の辞―　245
3　学長候補者に推薦される　264
（1）　教育学部長職を終える　264
（2）　教育学部長職8年の総括　265
（3）　学長候補者に推される　266
（4）　教師としての喜びを享受　269

第８章　帝塚山大学時代の塩尻公明 …… 281
1　帝塚山大学に招聘される　281
（1）　帝塚山大学に就職　281
（2）　役職と講義　283
2　妻への感謝―入院生活を体験して―　286
（1）　悲劇の夫婦？　286
（2）　入院生活と妻の看護　287
3　最後の講義ノート　290
4　教壇で倒れる　292
（1）　最後の講義　292

（2） 葬儀と墓碑銘　293

エピローグ …… 296
1　求道者としての塩尻公明―求め続けた真実の幸福と安心立命―　296
（1） 唯一人の旅路　296
（2） 求道に導いた５つの要因　297
（3） 求道者としての生涯　298
2　学者としての塩尻公明―求道としての学問研究―　300
（1） 天職としての教授職　300
（2） 求道としての一四の原則　301
（3） 求道としての役職　301
（4）「民主主義を基礎づける５つの基礎理論」への努力　302
3　教育家としての塩尻公明―天性の教育者―　302
（1） 天性の教育者　302
（2） 悩める人々の北極星　303
4　塩尻公明の実像―人間の業と闘った人生―　304

付　録 …… 305
1　塩尻公明略年譜　305
2　塩尻公明著作一覧　308
3　塩尻公明「或る遺書について」　322

あとがき …… 344

人名索引 …… 346

塩尻公明

―求道者・学者の生涯と思想―